

ルブリコン添加によりDPD再生時間大幅短縮を実現

A社がルブリコンのカーボン & スラッジ溶解効果に興味を示して頂き、DPDの詰りを防止してメンテナンス費用の削減と、DPD再生時間にかかる機会損失を避ける目的で、2019年1月より実証テストを行った。

テスト方法は、いすゞ社の『MIMAMORI』を使用して、ルブリコン添加前後のDPD再生状況を見える化し、本製品の効果を検証した。

車両：いすゞ 平成27年式 GIGA
10トンダンプトラックを定期便として
20台保有の企業

『MIMAMORI』とは
全ての運行データ「運行管理」「動態管理」
「エコドライブ」を「MIMAMORIセンター」
に集約し解析するセンター型システム



『検証結果』

別紙のルブリコン添加前（DPDレポート日付2018年12月31日）と添加後（DPDレポート日付2019年2月18日）のDPD再生時間と再生状況をご覧ください。

DPDの燃焼効率が悪く再生中の中段が多かったが
⇒再生状況が良好に改善

ルブリコンA-112、A-212Dを車両に添加投入し、投入前と投入2.5ヵ月後の再生状況を比較。添加投入後の1回あたりの再生時間が短くなっている。また、再生中段回数も大幅に減少していることが確認できた。考えられる要因はルブリコン添加によりDPDの閉塞が改善され再生状況が好転したと言えよう。

ルブリコンの継続使用によりDPDをよりクリーンな状態に保つことができるため、故障頻度を下げトータルのメンテナンスコスト削減に繋がると考える。